

ブーベの恋人 (1963)

LA RAGAZZA DI BUBE
BEBO'S GIRL

メディア 映画

ジャンル ロマンس

製作国 イタリア／フランス

色彩 B&W

時間 112分

初公開日 1964/09/12

公開情報 松竹映配

【解説】

二週間に一度マーラは彼に会いに行く。それが彼女の生活のはかない喜び。彼女は回想する、44年の終戦＝解放の日……。パルチザンである彼女の兄の同胞ブーベ（チャキリス）が悔やみを言いに彼女の家を訪れた。針と糸を貸してくれという彼の破れたズボンを繕ってやるマーラ。その夜、家に世話になったブーベはパラシュートの絹布を彼女に贈った。以来、彼からの便りを待つ日が続いた。週一回決まって寄越す手紙には、仕事や党活動に明け暮れる報告の他書かれておらず、愛の言葉はなかった。幾度か慌ただししい訪問のあった後、彼は求婚したが、同時に沈痛な面持ちで、仲間を撃ったファシストの署長とその息子を殺し、追われる身となったことを告げる。マーラは故郷に立ち寄り彼に同行。彼の実家の貧しい暮らしぶりに失望を隠せなかった。その晩そこも危ないというので、仲間に隠れ家を世話された二人は、わずかな蜜月の時を持った。しかし、いよいよ国内潜伏も許されず、彼はマーラを残して国外へ逃げた。一旦家に帰ったマーラだが、周囲の目がうるさく、友人の紹介で都会に出て働き、印刷所勤めの生真面目な青年ステファノと知り合う。お互い婚約者のいる身だったが、真剣なステファノをやがて本気で愛し始めるマーラ。けれど、ブーベが捕らわれて裁判となると、“君しか頼る人がいない”と言うブーベの支えとなろうと決心した。結局、14年の刑を受けたブーベ。列車に乗って面会に行くマーラは偶然、ステファノに再会し、それでももう7年経ったのだから、あと7年などあつと言う間だと語る。あの時、20歳だった娘は今、27歳の女盛りだった。戦後の混乱期の揺れる世相を一人の平凡な女性の目を通して描く社会派メロドラマで、素朴でいつもとは別人のようなカルディナーレはベストの演技。C・ルスティケリの大ヒットした主題曲が切なく作品にマッチしている。

【クレジット】

監督	ルイジ・コメンチーニ	Luigi Comencini
製作	フランコ・クリスタルディ	Franco Cristaldi
原作	カルロ・カッソーラ	Carlo Cassola
脚本	ルイジ・コメンチーニ	Luigi Comencini
	マルチェロ・フォンダート	Marcello Fondato
	アルバート・マルツ	Albert Maltz
撮影	ジャンニ・ディ・ヴェナンツォ	Gianni Di Venanzo
編集	ニーノ・バラーリ	Nino Baragli
音楽	カルロ・ルスティケリ	Carlo Rustichelli
出演	クラウディア・カルディナーレ	Claudia Cardinale マーラ
	ジョージ・チャキリス	George Chakiris ブーベ
	マルク・ミシェル	Marc Michel ステファノー
	ダニー・パリス	Dany Paris リリアーナ
	モニク・ヴィータ	Monique Vita イネス

カルラ・カロ

Carla Calo

マーラの母

エミリオ・エスポジート

Emilio Esposito

マーラの父